

## 第7次瑞浪市総合計画・基本構想（案）に対する

### ご意見と市の考え方

- ・ 募集期間 令和5年4月3日（月） ～ 令和5年5月2日（火）
- ・ 閲覧件数 152 件
- ・ 意見提出人数 4 人（内訳 市内 4 人、その他 0 人）
- ・ 意見数 13 件

いただいたご意見について、適宜要約した上、市の考え方について次のとおり公表します。

番号	ご意見	市の考え方（修正内容）
1	総合計画が市民一人一人に意識できるものにしてほしいです。目標値が先行して目標が実感できません。市民が参加できる総合計画にしてほしいです。	<p>総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画からなる、市における最上位計画であり市政運営の方向性を示すものです。また、市民と行政が協働してまちづくりを行っていくための「協働の手引書」としての役割もあります。しかし、総合計画というものが市民全体に関わる計画でありながら、認知度が低いという実態を踏まえ、本計画の策定に向けた取組として、「ミズナミライ」というフレーズと視覚的に訴えるデザインを検討し、のぼり旗、缶バッジ、ステッカーなどを作成し、関係者のほか、ワークショップ等に参加いただいた市民の方々にも配布することで、策定段階からPRを図っています。</p> <p>また、今回の総合計画・基本構想や現在進めている総合計画・基本計画の策定にあたり、地域懇談会や市長と語る会、各種アンケート（市民1,000人抽出、小中学生、企業、職員）や各種ワークショップ（学生、自治会・まちづくり推進組織）、公共施設10カ所に常設した意見収集ボードなど、様々な方法で意見をお伺いしてきました。今後も市民の方々からいただくご意見には、耳を傾け、対応していきます。</p> <p>目標値については、ある程度高い目標を掲げることで、事業実施の推進力とすることもありますが、これまでの成果や実績値をしっかりと分析した上で、設定をしています。</p>

2	<p>発見されたパレオパラドキシアの化石を活かしたものを総合計画に盛り込んでほしいです。化石博物館が非常にアクセスしにくい場所だと思います。発見場所に近いため釜戸町の道の駅に併設した化石博物館ができないか！計画に盛り込んでほしいです。</p>	<p>発見されたパレオパラドキシアの化石については、レプリカを制作し、瑞浪市の魅力ある資源の一つとして、市内外への情報発信し、PRしていきます。また、こうした地域資源としての化石を活かした取組は基本計画において位置付けることで検討していきます。</p> <p>化石博物館については、道の駅に併設する計画はありませんが、建物自体老朽化が著しく今後、同様に老朽化が進む市之瀬廣太記念美術館や陶磁資料館との統合を見据え検討しているところです。</p>
3	<p>十年後にはAIを利用した自動運転などの普及が進むと思われます。公共的な乗り物も市民の足として気軽に利用できるシステムを取り入れた交通網を普及させるよう総合計画に盛り込んでほしいです。</p>	<p>自動運転技術については、国の施策として展開され、各地で実証実験が進んでいます。当市においても自動運転技術を活用することで地域公共交通が抱える課題を解決できないかを検討し、情報収集を行っているところです。</p> <p>こうした先進技術の活用を視野に入れながら地域の課題を解決する必要がありますので、公共交通の分野において、「先進技術の活用」についての記載を加え、今後、基本構想を具体化する基本計画や実施計画において、検討を進めていきます。</p>
4	<p>計画書に瑞浪市民のニーズや感じている不満、現状での瑞浪市の魅力、将来的には、こうなって欲しいという要望の記載後に、目指すビジョンを記載してもらいたいです。令和4年8月の各種調査結果を検索し見つけたので内容を拝見しましたが、無作為抽出の市民、小中学校、企業、職員へのアンケートが実施されていたようです。全てがまとめられてしまっていますが、どの集団で（高齢者・子育て世帯・自営業者・サラリーマン・名古屋 通勤者など）どんな意見が多かった等を分析した資料を添付したのちにビジョンが出てくるのが良いと感じました。第7次瑞浪市総合計画の策定に係る各種ワークショップ報告書も検索して拝見しましたが若い人たちの柔軟なアイデアがあり、そういった意見も分析し資料として併せて載せてもらいたいです。</p>	<p>総合計画が、市民全体に関わる計画であること、また、市民全体に関わる計画でありながら認知度が低いことが課題であると認識しており、第7次総合計画では、基本構想を「ビジョンブック」という形で、ビジュアル・デザイン性の高い冊子として作成する方針としています。第1章から第3章において、この基本構想で何を伝えたいのか、「結論」にあたる部分を先に述べ、その背景となる社会潮流や課題、今後の方向性については、後段に資料編として簡潔に記載をする構成としています。</p> <p>また、これまで実施したアンケートやワークショップ等の意見を踏まえた上で、この基本構想の策定に至っていますが、これらの結果や主な意見については、現在準備を進めている総合計画・基本計画に付属して記載したいと考えています。</p>

5	<p>す。</p> <p>市の活力を維持という表現ですが、活力＝市の税収が増えることが大切と思うので「経済成長」および「人口の増大」が二大課題になると感じます。ただ肝心の税についての記載が一切ないため税収に絡めた記述が欲しいです。それに関連して過去の総合計画後、瑞浪市が目標に対して具体的に、どんな税金の使い方をして、その目標に対する効果はどうだったかなどの具体的な内容が欲しいです。例として経済成長分野ですと、例えば税収に繋がる市内企業の活性化という分野で「市内事業者のPRや支援を行っていくという方向性」、例えば産業振興分野で「〇〇分野での企業誘致という方向性」（アミューズメント分野として映画館、ゲームセンター、ボーリング場などの企業誘致はいかがでしょうか？特に映画館は周辺市町村に全くないので若者が来て活気が出そうな気がします。工場誘致は職を作るという点でも魅力的ですが。。。）「瑞浪の居住者を増やすという方向性」（「東濃 U ターン・I ターンフェア」を岐阜県の支援のもと、中央線沿線の市合同で名古屋で行い名古屋への通勤者を増やすとかなどは、どうでしょうか？）、例えば観光分野で「化石博物館を中心に活性化していくという方向性」や「自然豊かな観光地域へのアクセスを良くするという方向性」「SNS を使った瑞浪市 PR＝発信力の強化という方向性」（例えば恵那市役所のTwitter では、ほぼ毎日市内、観光 PR、イベントのお知らせ、新規企業紹介、など経済活性化 PR がされていますが、瑞浪市も同じ様にできると期待しています）上記のような具体的な方向性があれば実行時に迷いが無くなると思います。気になったのは「化石とゴルフの街瑞浪」という看板を見かけましたが、「化石博物館」について記載が無かったので、少なくとも「化石」に</p>	<p>市の活力を維持する上で、税収の増加はもちろん重要な要素であるといえますが、各種施策を展開した結果が税収増につながるものと考えます。この基本構想において記載する基本方針ごとの各分野における施策を総合的に推進することにより、税収の確保、活力の維持・向上につながるものと考えています。今後、策定を進める基本計画において市の財政推計を示すことで計画の実効性を補完する予定のため、税収等の記載もしていきます。また、総合計画・基本構想の作成にあたり、第6次瑞浪市総合計画の進捗状況評価等を踏まえたものとしています。意見4の回答にて記載したとおり、基本構想は、市民全体に伝わりやすくしたいため、結論にあたる部分を先に述べ、背景においても簡潔にまとめることとしたため、過去の総合計画の評価については、基本構想への記載は考えていませんが、総合計画・基本計画において一部記載をしたいと考えます。</p> <p>なお、第6次瑞浪市総合計画進捗状況評価については、市ホームページに掲載していますので、ご覧ください。</p> <p>ご意見の中で具体的な施策を提案いただいておりますが、こちらについても基本計画又は実施計画にて具体化していきます。</p>
---	---	--

	<p>関係した計画が欲しいです。人口の増大分野なら、子育て支援という具体性の無い方向性ではなく、子育て中の方が必要としている調査結果に沿った方向性を別途記載するのが良いと感じました。不満や要望などの調査が必須かと思いますが、送り迎えがある保育園や幼稚園、学童保育などへのアンケートやインタビュー協力を依頼するなどし、具体的に子育てしやすい子育て支援が何かを把握した上での総合計画が大切かと思います。</p>	
6	<p>アンケート・調査方法と結果の記載については千葉県流山市・島根県出雲市の総合計画が分かりやすかったです。流山市のものでは調査の具体的な手法（郵送アンケート配布、ワークショップ「明日の流山を語ろう」でのインタビュー、事業者懇談会でのグループインタビューなど）が写真つきで記述されておりイメージが湧きました（添付資料1）。またその結果が分析されて記載されていました（添付資料2、添付資料3）。また出雲市は市民ニーズという全体的なものとは別に、高校生のニーズという個別的な調査結果の記載があったので分かりやすいです（添付資料4）。令和4年8月の瑞浪市における各種調査結果では、7瑞浪市のまちづくりについての自由意見の箇所では良い意見が多数ありましたし、瑞浪市でも第7次瑞浪市総合計画の策定に係る各種ワークショップ報告書で若い人たちのニーズが書かれていたので、総合計画に盛り込まれることを望みます。</p>	<p>意見4の回答のとおりです。 これまで実施したアンケートやワークショップ等の意見を踏まえた上で、この基本構想の策定に至っていますが、これらの結果や主な意見については、現在準備を進めている総合計画・基本計画に付属して記載したいと考えています。</p>
7	<p>最後に、パブリックコメントの提出方法として入力フォームに気づかず Word 入力しましたが、入力フォームの URL にリンクを貼ってもらえたらありがたかったです。パブリックコメントサイトへの誘導も SNS でリンクを貼ってお知らせ、広報みずなみに QR コード記載するなどすればスマホ入力する若い人たちの参加も期待でき</p>	<p>オンラインフォームを活用しての意見提出は、今回、初めて採用させていただきました。リンクの貼り方等につきましては、いただいた意見等を踏まえ、今後、改善していきたいと思えます。 また、ホームページの掲載の場所・方法等、閲覧される方々により分かりやすく伝わるよう、改善に努めます。</p>

	<p>ます。また「第7次瑞浪市総合計画の 策定に係る各種ワークショップ報告書」「8月の各種調査結果」などは見つけるのに苦労しました。パブリックコメントサイトに関連資料のリンクを貼ってもらえると助かります。ご参考にいただければ幸いです。</p>	
8	<p>瑞浪市は都会から見れば山あり川あり自然豊かで、名古屋からは1時間もかからないという利便性もありますが地元の人にとっては、不便さを感じてしまう中途半端な土地でもあります。</p> <p>特に私の住んでいる釜戸町は JR の駅もあるのに若者はどんどん離れていき、高齢者が町を守っているという現状です。</p> <p>そこで希望は数年後に出来るという「道の駅」です。みんなで盛り上げていけることを期待しています。</p>	<p>釜戸町に計画する道の駅については、令和5年4月に「瑞浪市道の駅基本計画」を作成したところです。</p> <p>「” まちと ともに 育つ 道の駅 ”」をコンセプトに、住民の居場所としての拠点、観光の玄関口としての役割等を担う施設として整備を進めています。</p> <p>釜戸町だけでなく、人口減少対策は大きな課題です。瑞浪市では、この道の駅計画を1つの起爆剤として交流人口の増加や地域の活性化を図り、住民と行政が一体となり、各種施策を進め、人口減少に歯止めをかけるべく本事業を推進していきたいと考えます。</p>
9	<p>将来都市像及びその実現に向けた人口フレームと土地利用の方向性の記載が不十分だと思しますので以下の点に考慮した記載にしてほしいと思います。</p> <p>本文冒頭に「「将来都市像」を次のとおり掲げ、その実現のために人的な方向性を示す「人口フレーム」、面的な方向性を示す「土地利用の方向性」を次のとおり定めます。」とありますが、人口フレームと土地利用の方向性を見ても、この10年の期間でどのように将来都市像の実現につなげていこうとしているのかという方向性が読み取れません。人口フレームであれば、34,000人という目標なのであれば、その数字を掲げることがなぜ将来都市像の実現につながるのかという道理を市民や市職員が理解し指針とすることができるような記載を望みます。例えば、高齢化率50%の34,000人と30%の34,000人では都市の姿</p>	<p>瑞浪市の人口は、2000年の42,298人をピークとして減少に転じ、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計によると、2060年には、20,599人となるという結果が出ています。</p> <p>人口減少に伴う経済規模の縮小による経済社会に与える影響は大きく、人口減少に伴う高齢化は、労働力人口の減少や消費規模の縮小を引き起こし、経済規模を縮小させます。更に、社会サービスの低下を招き、更なる人口流出を引き起こす、縮小スパイラルに陥ることが懸念されています。</p> <p>本計画において令和15年度末における人口34,000人を目標として掲げていますが、この人数設定の背景としては、人口フレームを長期的に示した人口ビジョン（17ページ）にも一部記載をしています。合計特殊出生率が段階的に回復し、2.07程度まで上昇することで、2100年頃には、人口が下げ止まることが予測され、安定的</p>

<p>は大きく異なると思いますし、中心市街地の人口割合の高低によっても都市の姿は異なると思われます。年齢階層別、地域別にどのような分布になっていることを目指すのかという記載を含めるなどして、将来都市像の実現への道程を分かりやすく示して頂きたいと思います。また、土地利用の方向性に関しては、この基本方針及びゾーン、エリアの設定が「幸せ実感都市みずなみ～いっしょに創ろう夢ある未来～」の将来都市像にどのような理屈で貢献していくのかが読み取れません。第7回総合計画審議会資料2-1にある市の回答では「計画期間内には、ハード面では、瑞浪駅周辺再開発や瑞浪恵那道路の整備、道の駅整備など大規模事業が進められ、これらを拠点としたまちづくりが展開されます。…こうした背景から、市民と行政の協働の体制のもと、いっしょに夢ある未来を創ることで、幸せな暮らしを実感できるまちを目指すことと考えました。」とありますが、瑞浪駅や瑞浪恵那道路、道の駅などの拠点をどのように将来都市像の実現につなげていく考えなのか、その方向性を示してほしいと思います。※具体的施策の内容は今後作られる基本計画で示されると理解しています。具体的施策の背骨となる将来都市像をもっと実体化してほしいという意見です。</p>	<p>に推移することを見据えているものです。34,000人は、社人研推計値31,659人に比べ、約2,000人高い計画期間終了時点である令和15年における目標であり、計画期間における子育て世代を中心とした移住・定住を進めるなどの施策効果によりこれを達成することで、人口が減少していく中でも活力の維持・向上につながるものです。</p> <p>土地利用の方向性に関しては、第7回総合計画審議会資料2-1にて説明する計画期間中に実施予定のハード事業、ソフト事業の計画を踏まえているものです。瑞浪駅周辺再開発事業や道の駅整備などのハード事業により、これらの事業にて整備される施設を拠点としたまちづくりが展開されることを期待します。また、これらの整備のほか、瑞浪恵那道路や東濃西部都市間連絡道路などのインフラ整備に伴い、交流人口や関係人口の増加等が期待でき、まちの活性化につながるものと考えます。また、こうした事業と併せて、瑞浪市の特徴でもある緑豊かな自然や田園風景を維持していくことも方向性を考える上で重要であると考えています。</p> <p>こうした背景から瑞浪市に関わる市民一人ひとりが今まで以上に幸せを感じられるまちを目指すものです。また、これらの大規模事業は、自治体の力だけで実現できるものではなく、協働の精神のもと、地域と一体となり築き上げるものと考えておりますので、サブタイトルの「～いっしょに創ろう 夢ある未来～」にその想いを込めているものです。</p> <p>年齢階層別人口の記載については、基本計画における総合戦略の具体的な記載の中で示していくことを考えています。</p>
--	---

<p>10</p>	<p>将来都市像の実現度合いを検証する指標の設定を求めます。6次総では将来都市像が実現された姿を示すものとして「まちづくり指標」が設定されていましたが、今回はそれが設定されていません。どういう状態になれば将来都市像の実現に近づいたと認められるのかの評価軸の設定は、将来都市像のイメージを市全体で共有するためにも、各施策の優先順位決めや改廃時の指針とする上でも有用なものだと思いますので、是非設定してほしいと思います。第6回総合計画審議会資料2-1のNo.31において、市の考え方として「指標については、近年の社会情勢の急激な変化に対応すべく、時流に応じて変化させることが想定されます。そのため、基本構想に位置付けることは避け、基本計画に位置付けることで、柔軟に対応していきます。」とありますが、将来都市像は社会情勢の急激な変化があろうとも少なくとも計画期間内は普遍的に目指していくものだと思います。個別施策の成果指標は社会情勢の急激な変化によって、目標値を下げたり上げたり指標自体を変更したりすることは十分考えられることですが、将来都市像の実現度を測る指標は、社会情勢の変化に関係なく常に、目指すべき道を誤らないように設定されてしかるべきものと思います。6次総と同じ「幸せ実感都市みずなみ」という将来都市像を流用するのであれば、この都市像が実現している状態としていた「瑞浪市は住みよいところだと感じる市民」77%以上、「今後も瑞浪市に住み続けたいと考える市民」91%以上、「瑞浪市の現状について不満と感じていない市民」92%以上を引き継ぎ、それが6次総期間中に達成できなかった反省に基づいて、より将来都市像の実現につながる新たな計画づくりに努めるべきではないでしょうか。また、「第7次瑞浪市総合計画策定方針」に掲げられてい</p>	<p>指標については、近年の社会情勢の急激な変化に対応すべく、時流に応じて変化させることが想定されます。そのため、基本構想に位置付けることは避け、基本計画に位置付けることで、柔軟に対応していくこととして説明してきました。これは、第6次総合計画における進捗状況評価においても、多くの指標について新型コロナの拡大に伴う健康面の不安等が引金となり、数値が急激に変化し、思うように指標を測ることができなかったということが背景にあります。基本計画において設定する社会情勢に合わせた柔軟な指標を着実に達成することで、基本構想に掲げる将来都市像の達成につながるものと考えます。</p>
-----------	---	---

	<p>るコンセプト(3)「事業の効果検証が明確であり、社会情勢の変化に対応できること」(4)「市民と行政の指針となるものであること」を体现する総合計画にしていくためにも、総合計画の核である将来都市像は、どういう指標がどのような程度になっている状態を示すのが可視化されていると良いと思います。</p>	
<p>1 1</p>	<p>人口フレームにおける目標設定について、34,000人という数字の根拠が分かるように記載してほしいです。34,000人という数字がどのような根拠に基づき導かれたものなのかが読み取れず、「第7次瑞浪市総合計画策定方針」に掲げられているコンセプト(2)「事実と根拠に基づき、実効性が確保されていること」を1ページ目から放棄しているように感じてしまいました。2033年に34,000人を下回るとどういふ点で持続可能でなくなるのか、市の活力を維持・向上させるにはなぜ34,000人の人口がないといけないのかなど、34,000人という人口を将来都市像を実現させるうえでなぜ目指さなければならない、それが実現可能性のある目標であることが分かる記載が欲しいと思います。第6回総合計画審議会資料2-1のNo.7において、市の考え方として「6次総の分析を踏まえた上での目標であり、高い目標であることは認識しています。しかし、市として総合計画という最上位計画を策定する以上、ただ流れに任せるのではなく、一定の推進力となるよう目標設定したいと考えます。」とありますが、6次総では「国勢調査によると平成22年(2010年)では40,387人となっており、このままの傾向が続くとすると、平成35年(2023年)には35,900人にまで減少するものと見込まれます。このような状況に対して、少子化対策による出生率の向上や健康寿命の延伸対策、定住対策などの人口減少対策を総合的かつ重点的に実施し、</p>	<p>意見9の回答のとおりです。 第6次瑞浪市総合計画において設定した計画期間終了時の令和5年度における人口40,000人という目標は、社人研が推計するコーホート要因法により算出した10年後の人口35,900人に、3プラス1の重点方針に基づき、少子化対策による出生率の向上や健康寿命の延伸対策、定住対策などの人口減少対策を重点的に実施することにより、施策効果としまして、4,100人を加え、10年後の目標人口を40,000人としたものです。第7次総合計画における令和15年度末の目標人口34,000人の根拠については、意見9の回答のとおりであり、第6次総合計画同様、高い目標を設定することにより変わりありませんが、持続可能な長期的な推計を見据えた上での設定であり、この目標を一定の推進力としていきたいと考えます。</p>



	<p>平成 35 年度の目標人口を 40,000 人とします。」との理由で人口目標を設定し、結果的に 2023 年 5 月時点で 10 年前の見込み通りの 35,900 人台になっています。人口目標を高く設定することが人口減少を緩めることに効果的であるという事実があるのであれば 34,000 人でも 40,000 人でも高い目標を設定すると良いと思いますが、6 次総の人口目標設定と結果との乖離の要因と、目標値を高く設定することが推進力になったのか否かを検証した上で、目標値を設定していただきたいと思います。それがないと 6 次総と同じ結果になり、人口減少という大きな課題に対してこの 10 年の反省が全く活かされない総合計画になってしまうと思います。</p> <p>加えて、1. で意見したように年齢階層別、市内地区別（8 地区別、学校区別）の目指すべき人口フレームが示されていると各種施策展開の指針として有用なものになると思います。</p>	
<p>1 2</p>	<p>土地利用の方向性について、</p> <p>①地図上で JR 釜戸駅周辺が交流拠点に含まれていないと思いますので、交流拠点として JR 釜戸駅周辺を設定するのであれば地図上でも含めていただきたいと思います。</p> <p>②拠点（エリア）に①～③の拠点が掲載されていますが、それら拠点をどのように活用あるいは整備していくのかという方向性が読み取れません。方向性なので抽象的で構わないと思いますが、地域拠点に対しては〇〇をしていくことでどのような姿に導き、こういう形で将来都市像の実現につなげていく、交流拠点に関しては…といった方向性を示す記述がないと、それらがこの 10 年の計画期間中にどのような形で利用されていくのかがイメージできないと思いますので、利活用の方向性を示す記載を加えて欲しいと思います。</p>	<p>①地図上に釜戸駅周辺を交流拠点として明示します。</p> <p>②地域拠点、交流拠点、産業拠点それぞれに方向性を明記します。</p> <p>③五月橋や東濃西部都市間連絡道路の開通についても、インフラ整備の効果を期待しているところですが、これら大規模事業についての記載は、基本計画の中で考えていきます。</p> <p>④軸の設定については、意見 4 の回答にもあるとおり、基本構想を「ビジョンブック」として、市民の方々により分かりやすく伝えることを 1 つのポイントとしています。</p> <p>第 6 次総合計画では、広域骨格軸、都市骨格軸、交流軸、親水空間活用軸の 4 つを設定していましたが、広域骨格軸では、JR 中央本線、中央自動車道、国道 19 号瑞浪恵那道路、東濃西部都市間連絡道路を位置づけ、市内外の広域的な交流を、都市骨格軸では、市内交通を処理する機能を</p>

<p>③10年後の瑞浪市をイメージするにあたって、計画期間中の建設が考えられる五月橋や東濃西部都市間連絡道路の開通などについても記載し、それらインフラ整備の効果をも市としてどのように地域内に波及させていく方向性を考えているのか示してもらいたいと思います。</p> <p>④第6回総合計画審議会資料2-1のNo.18において、市の考え方として「軸という概念について、明記の必要性を改めて検討させていただき、軸（広域軸、地域連携軸、交流軸、親水空間活用軸）そのものを記載しないこととします。」とありますが、6次総では「市内外や地域間の連携・交流を図るべく、軸を土地利用構想に位置付けた」とあります。「まちづくりの基本方針」「2.魅力あふれるまちづくり」に記載のあるように、7次総ではシティプロモーション等を通じた対外的な情報発信による交流人口増や観光誘客促進などで定住人口予備軍の獲得を進めていくことが今以上に求められると考えられることや、病院統合や2033年頃に想定される焼却施設の広域化および③に記したインフラ整備など、東濃地域の一構成市としての土地利用を想定すべき情勢を鑑みて、市内資源を点としてではなく線や面として捉えることはむしろ6次総策定時よりも高まっていると思います。軸を明記する必要性はないと判断した根拠がよく分かりませんが、7次総計画期間中の10年を考えた時、下位計画（都市計画マスタープラン、道路網計画、観光分野の新たな計画など）策定時の大きな拠り所にもなると思いますので、「広域連携軸」と「交流軸」くらいは設定しておくことが望ましいと思います。</p>	<p>担う幹線道路を位置づけ、交流軸では、自然と歴史を活用した交流の場としての中山道、隣接地域の人々との交流の軸としての架け替え予定の五月橋を、親水空間活用軸として、土岐川、小里川を位置づけ、憩いの場、健康づくりの場に適した環境としていました。</p> <p>これらの軸という位置付けを省いたとしても、市内外や地域間の連携・交流を図るためのインフラ又は地域の資源としての役割があることは明確であることから、文言での記載としています。</p>
---	--

<p>13</p>	<p>その他として、「第7次瑞浪市総合計画策定方針」には「瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「瑞浪市行政改革大綱」については、基本構想の中で見直しを行い…。」とあり、総合戦略については最終ページに記載がありますが、行政改革大綱については該当するような記載は見当たりませんでした。位置づけの見直しを行われたのであればその旨の記載があると良いのではないのでしょうか。</p>	<p>第7次瑞浪市総合計画策定方針に基づき、「総合戦略」「行政改革大綱」については、総合計画に一本化する方向で進めています。</p> <p>前述したように、基本構想は、ビジョンブックとして市民の方々に分かりやすく伝えるという事に着眼しているため、出来る限り難しい表現は避けることとしています。</p> <p>総合戦略においては、国の進めるまち・ひと・しごと創生法が上位法となり、進めるべき施策であることから、「総合戦略」という文言を分かるよう記載しています。</p> <p>行政改革大綱は、市民サービスの向上や業務効率化を目的として進める内容を大綱として示したものであり、文言に捉われる必要がないため、固い表現は避けたものです。基本構想においては、まちづくりの基本方針5「持続可能なまちづくり」の(8)行財政運営に含まれるものであり、背景として「3. 本市の今後の方向性」の「7. 時代に即した行財政運営」においても、行政改革大綱の理念と同様の内容を含んでいるものです。</p>
-----------	--	---